

南会津地域の活性化

手引き轆轤の利活用

A2201605 遠藤 あやめ

研究の背景

福島県を訪れる観光客は、東日本大震災の影響から一時激減したが、近年少しずつその数を増やしている。しかし、平成23年の新潟・福島豪雨等の影響から南会津地域では現在も震災前年度より20万人も少ない状況である。

大内宿や、田島祇園祭など伝統的文化財を有する南会津においては、古くから豊富な森林資源とともに会津漆器の元となる木地の供給地としても重要な位置を占めており、現在国の重要有形民俗文化財「奥会津の山村生産用具」に指定された5,058点の資料が保存されている。また、観光問題とは別に、南会津では間伐材の活用について検討を重ねている側面もあり、これらの文化資源と間伐材の利用方法を模索し、伝統的工芸と結び付けることで、新しい南会津の観光資源を産み出し、地域活性化のきっかけとすることが出来ないだろうかと考え、本研究に結び付けたい。

研究の目的

観光客の誘致に際し、南会津地域の特長を活かし、森林文化への理解と活用、長期滞在の可能性、手仕事としての価値観の体験。直通特急の利用促進、リピーターに繋がる提案、インバウンド効果など様々な視点を通し新たな提案を模索する。

南会津地域の木地師文化は、奥会津博物館で展示されているものの現在ではあまり周知されておらず、特に若い世代に理解がないようである。そんな木地師文化を観光客だけではなく南会津地域に住む地元の人々など、より多くの人々に理解してもらい、手仕事の素晴らしさなどを再認識させることが重要であると考えられる。



また、間伐材は通常の木材とは異なった方向性で利用されており、例としてはバイオマス燃料や紙製品化、間伐材をチップにし熱圧成形加工した木材としての利用方法などある。しかし、地域における活用方法を考える上で、地域文化再認や活性化に向けた一助としての活用方法も考えられ、その土地々に見合った形での提案も重要であると考えられる。

研究のプロセス

事前調査 → 国内外を問わない間伐材の利用例、観光客入込数

現地調査 → 南会津森林協同組合の方々との会合、

現在南会での間伐材の利用例、年間産出量

制作物の立案 → 木地師の道具である手引き轆轤を使用し、

体験させることで手仕事のすばらしさや南会津地域の森林文化などを再認識させる。

試作 → 南会津の方に実際に手引き轆轤と間伐材を使用し体験してもらい、アンケート調査を行う。

制作 → 実際に手引き轆轤と間伐材を使用し、制作。プランの提案。



成果物(完成作品)

木地師の道具である手引き轆轤と南会津の間伐材を使用した体験型講座(ワークショップ)の(バリエーション)の提案。

間伐材の大きさや切り方、節などに応じて様々な形があり、それらを活かした器や塗りのパターンなどを、実際にワークショップを開くことを想定し、参加者に体験させる部分や事前に準備することなどを細かく計画を立て制作。



考察

「南会津地域を活性化させ、そのツールとして間伐材を利活用できないか」、というところからこの研究が始まり、はじめはただ間伐材の利活用ということばかり考えていたが、南会津地域の伝統や文化を学ぶことにより、もっと南会津地域の伝統や文化を多くの人々に理解してもらいたいという考えに変化し、今の形に至る。

今回、私は南会津地域の伝統文化を理解してほしいのは観光客だけではなく、地元の人にこそ理解してほしいという想いが強く、いかに南会津地域の国指定の民俗文化財である山村生産用具がもたらした伝統産業が素晴らしいものであるかを再認識させたいと考えている。実際に南会津地域でこういったワークショップを試験的にでも一度だけではあるがこうしたワークショップを行ったことで地元の人々との関わりをもつことができ、それぞれの考えや想い、意見を知ることができたことはとても良いことであると考えられる。